

山と博物館

第51巻 第3号 2006年3月25日

市立大町山岳博物館



キンクロハジロ

写真・文 清水博文

親子探鳥会 「冬鳥の観察会」

今年の冬は、世界的に鳥類のインフルエンザが人間に感染し、人から人へと感染するように変異した新型のインフルエンザが流行するといった危険性が唱えられました。渡り鳥は、人と接する機会が多いニワトリなど家禽類や、人家周辺に生息している小鳥たちにウイルスを伝播させる可能性があると言指摘もされています。特にカモ類などは高率で様々な型のウイルスを保持していることが知られています。

渡り鳥をはじめとした野生動物のほか、家庭で飼われているペット類も人畜共通の様々な病原菌を保持しています。動物などに接した後は、手洗い、うがいなど基本的かつ適切な処置を実行することが重要です。あまり過敏にならず野生動物と上手に付き合うことで、充実した余暇を楽しむことができます。

この様な事情から、観察会が敬遠される可能性もあり、また平成十八年豪雪と名づけられたこの冬の残雪もあいまつて、まだ二月下旬の寒い時期に、参加者が集まるの不安もありましたが、悪天候の中でも熱心な親子の参加が見られました。

この日は、朝から湿った降雪があり、視界が悪くフィールドスコープを使用しても色の識別が出来ず、鳥の種類の判別が困難な程でした。

観察できた種類は例年より少なかったですが、キンクロハジロなど水中の魚などを捕らえて食べる「海カモ類」と、マガモなど主に水面の餌を食べる「陸カモ類」との、水面に浮かんでいる時の尾羽の形状や、水面から飛び立ち方の違いなどを観察することができました。子供たちは、雪の降る冬の厳しい自然の中で力強く生活している野生動物の姿を感じとっていたようです。

(市立大町山岳博物館学芸員)

南アルプス芦安山岳館の紹介

深沢 剣一

昭和三十九年六月に国立公園に指定された南アルプスは、諏訪湖を頂点とした赤石楔状地と呼ばれ、南北百二十キロメートル、東西は中央部で四十キロメートル、三千メートル級の山を十三座含み、キタダケソウやライチョウに代表される貴重な動植物を有する、日本を代表する山岳地の国立公園です。その自然、歴史を後世に伝えるため、南アルプスを愛する多くの登山者や自然愛好家が意見集約し、旧芦安村に、「南アルプスの総合的な文化館」の建設の必要性を提言しました。これを受けて村は財源を確保すると同時に、それらの人々の協力を得ながら「開館準備委員会」を発足させ、山岳関連施設の協議を重ねていきました。山岳文化の発掘と研究・継承、自然保護や安全登山の普及、山を仲立ちとしたさまざまな交流の実現を目的として平成十五年三月に村営で開館し、翌月、合併で誕生した南アルプス市に移管されました【写真1】。山岳館は木造平屋建て延べ床面積一四二二平方メートル、設計は丹下健三設計事務所に依頼しました【図】。建物は県産材を主体としてカラマツの集成材を使い、木材の持つ「心地よさ」「暖かさ」「丈夫さ」等の特性を十二分に生かしています。

館内は常設展示室、ラウンジ（企画展示スペース）、情報スペース、山岳図書コーナー、語り部コーナーなどにスペースが分けられています。

1、常設展示室

南アルプスの自然、文化等を四つのスペースに分けて展示しています。

「山に学ぶ」

南アルプスの動物、高山植物、樹木、地形、地質、自然現象を具体的に展示し、ブロッケン現象の体験や高山植物の分布などが分かるようになっています。キタダケソウを発見した清水基夫、ホウオウシヤジンを発見した辻本満丸の紹介や、高山植物の保護に関する山梨県条例を解説し、これらを通して自然保護の重要性を考えます。

「山に登る」

登山の歴史を年表にして紹介する他、近代登山を支えた地元の山案内人にスポットを当てています。北岳バットレス、地藏岳のオベリスクの模型、登山の装備の変遷、安全登山の基礎知識をパネル化して展示しています。

「山に生きる」

芦安地区は山林面積約九十六％。山とともに生きてきた村人の生活と歴史、ほとんど知られていないドノコヤ鉱山、南アルプス林道、御勅使川の氾濫の記録を展示しています。

「山の喜び」

山と信仰、民話や史跡を通して「山と人」の歴史を探っています。また、温泉、レジャー、山の恵みなども紹介しています。

「県産材コーナー」

県土の約八十％を山林で占める山梨県は、戦後植林された木々が半世紀を経て、「県産



写真1. 南アルプス芦安山岳館の外観

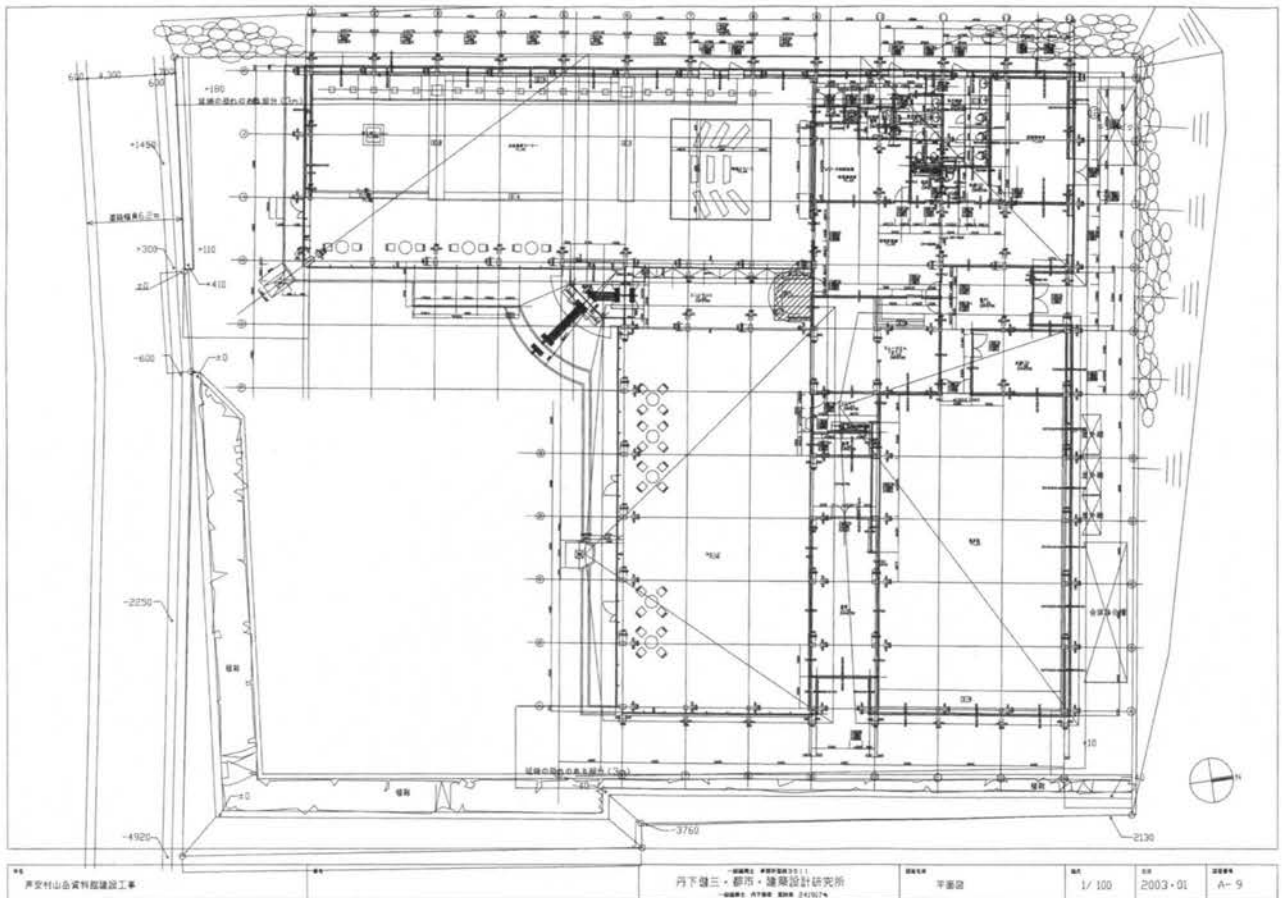


図 南アルプス芦安山岳館の平面図

材」として着実に成長しています。森林は水資源の確保、二酸化炭素の固定と様々な役割を果たしています。間伐や枝打ちなどの作業により、このような力をより発揮させた、県産材の活用及び杉、檜、赤松、黒松の利用法を紹介しています。

平成十六年には、国土交通省関東地方整備局富士川砂防事務所及び長野県山梨森林管理事務所の協力を得て、常設展示に「砂防」に関する展示を加えることができました。

2、ラウンジ

広い空間を利用し、企画展や、音楽祭を実施しています。開館当初は県内にアトリエを持つ日本画家宮本和郎氏の日本画展を、秋からは白簾史朗写真展を開催し好評を得ました。さらに平成十六年度は山の版画家として有名な畦地梅太郎展として代表作「白い像」、「登攀の前」その他南アルプスの「甲斐駒が岳」など二百点を越える作品を一堂に展示しました。二月からは長野県在住の松下英友氏のパステル画展を開催。指で描いたとは思えない繊細なタッチが特徴でした。平成十七年度は、国土交通省国土地理院関東地方測量部と共催して「伊能図と南アルプスの測量・地図展」を開催しています。測量登山が近代登山に果たした役割を探る試みを行ない、測量の公式記録である「一点の記」と、登山者が三角点をどのような視点で見ていたかを登山記から拾い出しています。

このほか、平成十六年度は、市の商工会と協力し音楽祭を実施、アルプスホルン等独特の音楽を周辺ペンション、旅館の宿泊者に提供することができました。今年度も十月八、九

日に音楽祭を開催しました。

3、リアルタイムの映像

当館では、夜叉神峠（千七百七十メートル）、北岳山荘（二千八百メートル、夏季限定）にライブカメラを設置し、山岳館の一五〇インチスクリーンで流しています。夜叉神峠からは野呂川を挟んで聳える白峰三山の稜線、北岳山荘からは眼前に迫る北岳を見ることが出来ます。この映像はインターネットを通じて提供し、家にいながらにして山の雰囲気を感じることが出来ます。また北岳山荘に気象観測器材を設置、気温、雨量、風向・風速を公開しています。

4、図書コーナー

蔵書は約六〇〇冊。貴重な山岳資料に触れることができます。貸し出しはしていませんが、開館時間内ならいつでも閲覧ができます。山梨県の植物分類学の草分け的存在である、秋山樹好氏が使用した貴重な高山植物の資料や、南アルプスの貴重な書籍の他、「山岳」、「岳人」、「山と溪谷」等の古い雑誌も閲覧できます。

5、語り部コーナー

芦安地区の昔話や、鉾山の話等囲炉裏を囲んで行ない、お年寄りや子供、山村と都会など世代間や地域間の交流の場として、また山や自然に関する各種講座、勉強会、研究発表の場として有効に活用されています。



写真2. 自然観察会の様子

6、自然観察会、ワークショップ等の活動内容

当館では年数回、自然観察会やワークショップを実施しています【写真2】。平成十六年度は高山植物や樹木の観察会、間伐材等を使った木工教室を開催し、参加者からの

評判も良く、木工教室は急遽実施日を増やしたほどです。高山植物と樹木の観察会では、白峰三山の展望台である夜叉神峠へ登りながら、専門の講師から自然の仕組みや生態系の解説を受けます。その他、NPO法人芦安ファークラブと共同で五月、九月の登山教室、六月のキタダケソウ観察会を開催し、登山教室は好評で

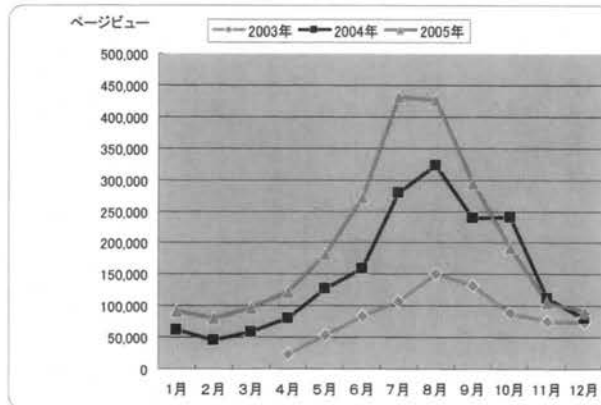
たくさんさんのリピーターが生まれました。キタダケソウの観察会も山開きと同時に開催し、アイゼンをつけ苦労して登り、南アルプス北岳にしか生育しない、キタダケソウを通じて、貴重な高山植物について知識を深めています。昨年は更に第六回ライチョウ会議山梨大会が開かれました。当館は、その事務局を担当し、高円宮妃殿下を南アルプス市にお迎えし、

表. ホームページ「南アルプス NET」へのアクセス数

南アルプスNET 月間総ページビュー(2003年4月-2005年12月)

	2003年	2004年	2005年
1月		61,385	92,386
2月		45,307	80,002
3月		57,899	96,915
4月	23,795	80,609	121,435
5月	52,752	127,375	182,991
6月	83,870	158,843	273,201
7月	106,704	279,606	431,794
8月	151,301	323,097	426,372
9月	131,444	239,877	294,916
10月	86,432	240,414	192,435
11月	75,733	112,528	105,417
12月	73,814	79,716	90,833

※2003年04月=03月30日~04月26日
 05月=04月27日~05月31日
 06月=06月01日~06月28日
 07月=06月29日~07月26日
 08月=07月27日~08月30日
 09月=08月31日~10月04日
 10月=10月05日~11月01日
 11月=11月02日~11月29日
 12月=11月30日~12月27日
 2004年01月=12月28日~01月31日
 02月=02月01日~02月28日
 03月=02月29日~03月31日
 以降は1日~月末の値



トータル総ページビュー数=4,983,198

南アルプスに生息するライチョウの現状等についての研究発表がなされ、その生息環境の保護について議論が交わされました。(高円宮妃殿下は当館を訪れ館内をご覧されました。)

当館はホームページ「南アルプスNET」上でも積極的に情報発信しています。南アルプス北部の登山道を網羅し、コースタイム、登山道沿いに見ることのできる高山植物など調べることができます。山小屋の料金から連絡先、アクセス情報も知ることができます。平成十七年の七、八月は月間アクセスが四十三万件(ページビュー)を越えました【表】。その他、山岳館のイベント等の情報を月二回のメールとして配信も行なっています。

南アルプス芦安山岳館は、山岳文化、自然保護、環境教育、安全登山の基地として有効に機能させ、その設置目的を達成するために、積極的に、南アルプスの自然、文化、歴史等の調査、研究、情報発信を行なっていきたいと考えています。現在、館長以下四名のスタッフが丸となって管理、運営にあたっています。

(南アルプス市役所主事)

山と博物館 第51巻 第3号
 発行 千野野大町市大町八〇五六一
 市立大町山岳博物館
 TEL 〇二六-二二〇二二
 FAX 〇二六-二二〇二二
 E-mail: sanpaku@city.omachi.nagano.jp
 URL: http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

印刷 株式会社 印刷
 定価 年額一、五〇〇円(送料含む)(切手不可)
 郵便振替口座番号 〇〇五四〇一七二二九九三